

## 食生活から見た国際理解教育—マレーシアの屋台を教材にして—

埼玉県立蕨高等学校定時制 木田 一彦

### 1 はじめに

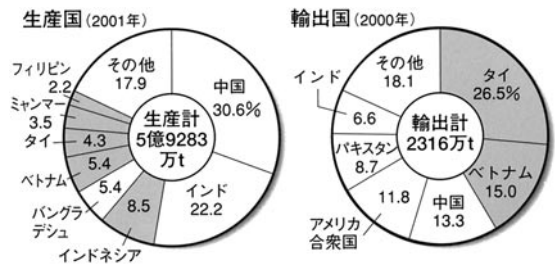
国土交通省の資料によると、2003（平成15）年に日本人が海外旅行をした人数は約1330万人である。SARSの影響で前年と比べると20.4%の減少である。ピークは2000（平成12）年の1782万人で減少しているが、年間の旅行者数は約1300～1600万人時代である。海外旅行での楽しみは、年齢層によっても異なるが、体験をしたり、テーマパークや観光地の見学、ショッピングそして食べることである。因みに「観光」とは、「その国や土地の光を観る」というところから言われている。「屋台」も東南アジア諸国にとってはやはり「観光」の一つである。

今回は、東南アジア諸国の農業の特色から屋台に欠かすことができない食材や食生活について紹介する。その食生活から見た国際理解教育や日本人のアジアへの海外旅行についても紹介し、授業の一例とする。

### 2 東南アジア諸国の農業の特色

教科書『楽しく学ぶ世界地理B 最新版』の4章4節「州・大陸規模の地域調査」の中の「1 東南アジア」において、「② 東南アジアの農業」（p.120～121）がある。ここでは「食生活と農業」において、東南アジアの農業の特色は稲作中心の農業であり、その米（主食）はそれぞれの国において消費されたり、輸出されたりしている。とくに米を使った料理の場合、「ご飯」や米を粉（上新粉）にして「麺」にしたり、調理方法も様々である。また、その米を使った料理を引き立てるため、胡椒などの香辛料や魚しょうが伝統料理にはかかせない。果物も東南アジア諸国において生産され、輸出もされている。果物といえば、現地に行くバナナやマンゴーをはじめ、ジャック・

フルーツやドリアンなど日本ではあまり見かけない果物がある。とくにマレーシアの首都クアラルンプール郊外の果樹園に行くときさまざまなものを見かけることができる。



▲⑥ 米の生産国と輸出国（FAO生産年鑑 2001、ほか）

『楽しく学ぶ世界地理B 最新版』p.121

### 3 マレーシアの屋台の食生活

教科書p.120に、「屋台で何を食べようか？」という「現地レポート」がある。ここでは、マレーシアの食生活をとおして、屋台の料理にはいろいろな種類があり、しかも早くでき、安い料金で食べることができる。また、衛生管理法がとても厳しく、マレーシアの屋台では不衛生な食品や食器だと摘発されてしまう。したがって、現地の人はもちろん、日本や海外からの観光客も利用している。

ここでは、屋台のいくつかの料理を生徒に紹介する。食べ物を目の前にすると人間は笑顔になり、人間の文化にとっていかに食べることが大切かが理解できる。したがって、現地の屋台で生計を立てている方々も笑顔で対応しているよ、と。料理の値段は2～3リンギット（約60～90円、1リンギットは約30円）。小銭や少額の紙幣を使用する。50リンギットや100リンギットなどの大きな紙幣は失礼にあたる。10リンギットの紙幣で釣り銭をもらいながら利用するのもよい。

### ① ミーゴレン (焼そば)

マレー語で「ミー」は「麺」、「ゴレン」は「炒める」という意味で「焼そば」である。この「ミーゴレン」にもマレー系、中国系、インド系がある。

### ② ナシゴレン (焼きめし)

「ナシ」は「ご飯」という意味で、文字どおり焼きめしである。ナシゴレンもマレー系、中国系、インド系がある。マレー系は唐辛子を切っ入れて、黒胡椒も入れるため、かなり辛い焼きめしである。中国系は、かまぼこやエビなど具だくさんの焼きめし、インド系はマレー系とほぼ同じで、香辛料が多く使われている。

### ③ ラクサ (ココナッツ風味のカレー麺)

唐辛子と香辛料やハーブをブレンドしたカレーにココナッツミルクを使った麺。

以上3種類を紹介するが、図書館などでこのような内容が掲載されている本を利用すれば生徒たちも気軽に家庭で調理できる。なぜそのような味になるのかを考えさせれば、国際理解教育の一つにもなる。



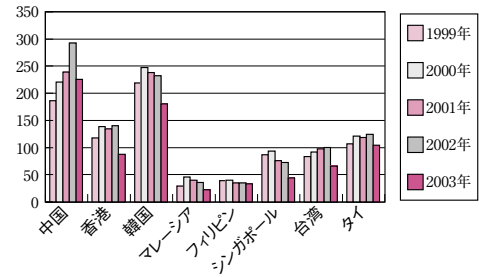
▲① マレーシアの屋台ごはん (コタキナバル) 肉や野菜などのおかずを選んでごはんのせてもらう。

『楽しく学ぶ世界地理B 最新版』p.120

## 4 日本人旅行者の旅行先

2003年には日本人の海外旅行者数が減少した。SARSの影響である。その関係で旅行日数を見ると、5日以内の旅行が2002年には59.1%であったが、2003年には55.5%に減っている。

日本人海外旅行者各国別訪問者数 (アジア)



観光白書 (平成16年度版) 国土交通省より作成

また、近年日本の経済も厳しい状況下にある。賃金も減少し、残業も多く、連続した休暇がとりにくい状況でもある。したがって、海外旅行も費用や日数的に安く、短期間となる。因みに比較的長距離のヨーロッパ方面の旅行費用は20万円台後半で、日数も7日以上となり、難しい。しかし、SARSの影響以降、アジア方面は回復し、レジャーや美味しいものを求めに行く人が多い。

2003年の旅行先上位5か国は、アメリカ23.8%、中国22.0%、韓国13.6%、ハワイ10.0%、タイ7.8%である。それでもアジアの国が3か国は入っている。因みにマレーシアは1.6%である。また、最近韓国ブームとなり、おそらく2004年の旅行者数は多くなっているだろうと考えられる。

アジア方面に人気があるのは、手軽に行け、費用も比較的安く、レジャーやエステ、グルメを楽しむからである。

## 5 おわりに

東南アジア諸国の農業とマレーシアの屋台の食生活を通して、東南アジアを学ぶ授業を紹介した。また、日本人の海外旅行者数の統計からも、その数値の背景にあることを考えることができる。国際理解教育の大切なことは、人類みな平等、意見の対立が感情の対立にならないこと、相手の立場にたって思いやることなどである。地理学習も国際理解教育の一つのテーマにできる。地理教育で培った国際理解を生徒たちが社会に出ても大切にすることが重要と考える。